

野田のつく舞

今回から、「野田人物語」に替わり、野田市内にある文化財をシリーズでご紹介します。

第1回目は国選択・県指定無形民俗文化財の「野田のつく舞」です。

野田のつく舞は、野田下町須賀神社の夏の祭礼に奉納されます。先端に一斗樽をかぶせ、白木綿で巻かれた高さ14・5メートルの柱を立て、「ジュウジロウサン」と呼ばれる雨蛙の面をかぶった白装束の演者が、柱や樽の上、柱から張った綱の上などで軽業を演じるもので、雨乞いの意味があると伝えられています。

「野田のつく舞」会場案内図



京の四条河原で催される蜘蛛舞の様子がボストン美術館所蔵「四条河原遊楽図屏風」に描かれています。右手に扇子を持ち

「愛宕神社年暦」という記録には、享和2(1802)年に野田町と山崎村で行われたのが始まりと書かれています。高所での軽業を伴うこの珍しい芸能はどこから野田にきたのでしょうか。

民俗学者柳田國男をはじめ、さまざまな人がルーツをたずねていますが、中でも野田の古谷津順郎はシルクロードまでさかのぼる壮大な物語を『つく舞考』という本に書き記しています。起源をたずねてみると、

どうやら室町時代から江戸中期にかけて盛んに行われていた「蜘蛛舞」という芸能がもとになっていると思われる。

腹を下り綱を下っていく軽業師の姿は野田のジュウジロウサンを彷彿とさせます。中世京都の人々の目を楽しませていた蜘蛛舞の芸能が、400年の時を超えて野田に伝わったと想像するとき、ジュウジロウサンの妙技もさらに魅力的に感じられるはず。ぜひ今年のつく舞をご覧ください。

野田のつく舞は、野田三ヶ町夏祭りの中日(今年は7月16日)の19時30分から21時まで、キッコーマン本社裏駐車場で行われます。※会場には駐車場はありません【参考文献】古谷津順郎ほか『つく舞考』岩田書院、野田市郷土博物館編『野田の夏祭り』津久舞



命綱なしで繰り広げられる妙技に歓声も

7月の休日当番医

休日当番医での診療時間

外科・産婦人科 = 9時～22時 (ただし16時～19時は除く)

内科 = 9時～16時 (19時～22時は急病センターで行います)

日(曜日)	外科	内科	産婦人科
3日(日)	山崎外科内科 (☎7122-2359)	尾崎台クリニック (☎7127-6677)	アイレディースクリニック (☎7137-7661)
10日(日)	西村クリニック (☎7123-0050)	野田病院 (☎7127-3200)	遠藤産婦人科医院 (☎7124-7860)
17日(日)	しばやま整形外科 (☎7120-5355)	桜台診療所 (☎7126-2929)	杉崎クリニック (☎7125-1070)
18日(月)	小張総合病院 (☎7124-6666)	あらい内科クリニック (☎7122-5723)	川間太田産婦人科医院 (☎7127-1135)
24日(日)	野田中央病院 (☎7122-6161)	山縣医院 (☎7125-3741)	小張総合病院 (☎7124-6666)
31日(日)	東葛クリニック野田 (☎7124-3101)	たんぼぼこどもクリニック (☎7126-8118)	アイレディースクリニック (☎7137-7661)

※休日当番医は変更することもあります。受診の際にはテレホンガイド (☎7124-7272: コード6101)、または野田市ホームページ (<http://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/04-01-01.html>) で確認をしてください。

急病センター

☎7125-1188

▼内科・小児科 = 19時～22時 (毎日)

▼歯科診療 = 9時～12時 (休日)

▼東日本大震災から3か月余、市では被災された方の支援に努めるとともに、市民の皆さんの安全を確保するため全力で公共施設の復旧に取り組んできました▼同時に今回の震災の経験から、災害発生時の皆さんへの情報伝達手段の整備と、学校耐震化の推進が急務であると分かり、早速整備に取り掛かっています▼我が家でも、大きく揺れた家具を固定し、家族で避難場所や連絡方法を再確認しました▼皆さんも、3月11日の経験を生かして、今一度、万全な備えを行ってください。(な)

編集後記

市の木



けやき

市の花



つつじ

市の鳥



ひばり